

森 隆敏



鈴木 皓平



安田 昌功



或馬 次郎



暮田 美和



安田 昌功

第32回
“癒し”としての自己表現展
－心の杖として鏡として－



杉本 たまえ

1990年初頭以来、作品の発表の「場」として〈造形教室〉のメンバーが自主的に準備や展示、運営を行い、毎年開催してきた「“癒し”としての自己表現展」。



松浦 雅生

“街の中で作品展を”という意図のもとに始められた本展は、病者や障害を持つものへの理解や同情といった多数者の立場、段差を超え、それぞれが自分自身の生き方を見つめ直す、かけがえのない場・関係性を索め、試行し続けてきました。



山崎 雄作

“パッション＝受苦受難・情念情動”から生み出され、自らを癒し支える自己表現の活動は、困難な現代社会を生きる人々にとって通底・協働する問題を逆照射しているとはいえないでしょうか。

「生きる」とは何か…、「病む」とは何か…、「表現」とは何か…、今回もアートを通した交感、交流の「場」となることを希（のぞ）んでおります。

平川病院〈造形教室〉



大森 英明